

無災害100万時間の達成を目指して

小坂営林署 下呂森林事務所 基幹作業職員 今井 富夫
森 林 官 村 井 千 秋

1. 目 的

下呂森林事務所は、昭和50年1月28日から現在まで約22年間にわたり96万時間無災害を継続しています。

この機会に、今日までの安全活動への反省も含め、さらなる無災害記録継続に向けて、これまでの安全への取組みについて振り返り、今後の安全活動への参考になればと考え、我が班の活動について発表します。

2. 安全活動の内容

(1). 森林官の安全活動

私は平成8年4月から当森林事務所の森林官を努めています。歴代の森林官等並びに現場で働く基幹作業職員の方々の地道な安全活動によって、長い間、無災害が継続していることに深く敬意を表わすものです。

当森林事務所は、他の森林事務所の作業地と比較してみても、作業地は広範囲に点在しており、かつ急峻地が多く、冬期間の積雪が少ないことを除けば、それほど恵まれた作業環境におかれているとは言えません。また、最近多く聞かされる蜂刺されの災害についても、作業地が暖かいことから蜂の活動期間が長く、特に気を使っています。

このような作業条件の下で、安全指導について特別なことはしていませんが、営林支局や営林署からの指導に更に工夫を加えTBMや安全懇談会を通じ、班長や現場の皆さんへ伝えています。

以下、日常行っている安全活動で心掛けていることについて紹介します。

①. 現場へ出向いて話をするよう心掛ける。

これは、日々変化する作業地を私自身が把握できると共に、顔を合わせることで、職員の健康状態や、昼休みの雑談を通して、家庭での出来事（時には悩み事の相談）や、地域での行事等をも知ることができます。

すなわち、表面的には雑談に見える会話のやり取りの中に安全指導のポイントを含めることによって、一方的な話にならず、現場の雰囲気も和らぎ、緊張をほぐすことで、安全に役立つと思っています。

②. 指導文書の内容を現地へ置き換えて話すよう心掛ける。

支局からの安全への指導文書は、支局全署を網羅したものであり、このことは、各森林事務所を抱える営林署についても言えることと思います。

したがって、支局等の指導を踏まえつつ、かつ、当森林事務所の現場へ置き換えて考え、より実践的（具体的）になるよう心掛けています。

また、これまでの反省としては、職員の方は全員がベテランで、長年造林作業へ携わってきていますので、安全についての指導は、今迄に何度も聞いていることと思います。ややもすれば、マンネリ化しやすい安全指導については、いくらかの工夫をしてきましたが、さらに工夫して周知徹底できるようにして行かなければと考えています。

そして、無災害100万時間達成へ向けては、今迄の安全への取組みを継続して行けば良いと思いますが、ただ、達成を期待するあまり、周囲が必要以上に現場職員へプレッシャーをかけないよう心掛けなければと考えています。

(2). 班長の安全活動

なぜ、災害は起きたのか？22年前の災害を振り返ってみると、当日は、徒歩で1時間半程行った所で先山の休憩所作りに従事中のことでした。現地到着後、即作業に取り掛かった直後、上方からの落石を避けるために転倒し足の骨を折るという災害でした。運の悪いことに災害に逢った職員は、1週間後の結婚式に松葉杖をついて痛々しい姿で式に臨んだのでした。この体験から災害の悲惨さを班の者全員が心に焼き付けられました。

その後全員で、この災害を分析した結果、今迄の作業には、ゆとりが無かったという結果がでました。それからは、いかにすれば「ゆとり」を持った仕事ができるかと言うことで、全員で取り組んできました。

以下、我が班の日常的な安全作業への取組みを紹介します。

どこの現場でも安全に対しての取組みは一緒ではないかと思えます。そうなんです。一緒のことをやっているのです。決めたこと・基本動作を守り、災害の無い職場作りに全力で努めているのです。そんな中で、特に気をつけて今迄実行してきたことは、次の点です。

①. 翌日の作業段取りは前日に行うようにしています。

これは、造林作業が、作業種・作業場所の移動等多岐にわたることから、翌日の作業を全員に知らせることによって、全員が次の作業への責任と安全への心構えができます。

②. 作業現場へは、いつも余裕を持って到着するように心掛けています。

③. 普段から何でも話せる職場の雰囲気作りに心掛けています。

このことによって、他人には話しにくい自分の健康状態や、家庭での悩みごとを、お互いに相談する中から解決できることもあり、メンタルヘルス的な面からも、安全に役立ってい

ると思います。

- ④. 安全目標には、時の話題を盛り込んで、全員が興味を持つように心掛けています。

例えば、昨年の例を挙げてみますと、昨年全国的に流行したO-157感染防止のため手洗い励行・飲水禁止等を安全目標へ盛り込みました。

これらを実行することによって、仕事に「ゆとり」と「チームワーク」ができ、ひいては、これまでの無災害96万時間の達成につながったと考えています。

3. まとめ

我が班の安全活動の要点としては次のとおりです。

- (1). 安全指導は堅苦しく表現せずに、より現地に応じた具体的な指導をしていること。
- (2). 各自がそれぞれの作業についての責任と安全への心構えができるように心掛けていること。
- (3). 職場の和と心の豊さ明るさを大切に、何でも話しやすい雰囲気を保つこと。
- (4). 「ゆとり」のある作業を行えるよう作業地へは余裕をもって到着するよう心掛けていること。

これらを今後も実践継続することで、当面の目標である、無災害100万時間の達成へ向けて、残された時間を老体にむちうって、互助の精神で頑張っていきたいと思います。しかし、あくまで目標はこの達成に止まることなく、さらなる記録へ向けて努めて参る所存です。



翌日の作業段取りの様子